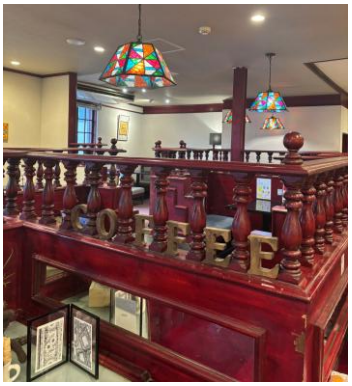
～令和９年度～

地域未来創生スクール

第３期生　募集要項









一般財団法人
ふるさと財団
FURUSATO FOUNDATION

目次

1 スクール概要 P1

2 実践型講義 P2, 3

3 プロセスデザイン研修 P4, 5

4 講義日程 P6

5 スクールの魅力 P7

6 受講生の声 P8, 9

7 募集要領 裏表紙

1．スクール概要

目的

多くの地方自治体が人口減少や産業の衰退などの地域課題を抱えている中で、課題解決のノウハウをもつ人材を育成することが急務となっています。

ふるさと財団は、これまでの事業運営の中で蓄積してきたリソース・ノウハウを活用して一流の講師陣で構成する「地域未来創生スクール」を開講します。

当スクールでは地域の未来を担う実践力を備えた人材を育成することにより、地方自治体をはじめ地域づくりを担う民間の皆さまに貢献いたします。

特徴

（１）実践力の高い講座の提供

地域づくりに高い知見をもつ学識者や経験豊富な実務家等の講師陣から地域課題に対するアプローチ手法を学び、地域課題に即した対応力を身につける**「実践型講義」**と**「プロセスデザイン研修」**を提供します。

（２）一流講師陣との人的ネットワークの形成

地域経済活性化、関係人口・移住、都市政策等、様々な分野で活躍されている一流講師陣と受講生が**対面形式**で一同に会し、講師陣・受講生相互のコミュニケーションを図ることにより、人的ネットワークが形成でき将来の大きな財産につながります。



主催者メッセージ



未宗　徹郎（一般財団法人　ふるさと財団　理事長）

「地域未来創生スクール」は地域課題を抱える地方自治体職員等を対象として、地域づくりを担う実践的な人材育成を目的とする講座です。
第１期生・第２期生と講師陣の熱量には目を見張るものがありました。
第３期生も全国各地から「やる気と熱意」にあふれる方々にぜひご受講いただきたいと考えておりますので、奮ってご応募ください。

2．実践型講義

＜講師紹介＞

※敬称略

【特別講義】



テーマ：離島から学ぶ　生き残るための行財政改革
講　師：大江　和彦　（島根県海士町長）

島の現状は日本の未来であると同時に、島にこそ日本の未来を創るヒントがあると考えます。戦後７０年間で人口が３分の１に減少し、財政再建団体への転落予測を受けた海士町が、生き残りをかけて挑んできた改革と戦略から、これからのまちづくりに必要なことを考えます。

【総　論】



テーマ：地域づくり論
講　師：小田切　徳美　（明治大学　農学部　教授）

「地域づくり」とは、地域の新しい仕組みを「つくる」ことを意味しています。
現代に即して言えば、「人口が減少しても、地域で幸せに住み続けること」を住民の力、関係人口等の外部の力、自治体の力を糾合して推し進めることです。その体系と具体策を論じます。

【しごと】



テーマ：農山漁村発イノベーションを現場から読み解く
講　師：図司　直也　（法政大学　現代福祉学部　教授）

第１次産業を主要な産業としてきた農山漁村では、多様な地域資源や分野、主体を組み合わせ、新しい事業の創出を目指す「農山漁村発イノベーション」の動きが立ち上がり、政策的な支援も始まっています。その現場での動きを捉え、求められる要点を考えます。



テーマ：観光まちづくりの実践と展望
講　師：梅川　智也　（國學院大學　観光まちづくり学部　学部長　教授）

観光による地域の活性化・再生を進める際、地域を上手くマネジメントする「観光まちづくり」という考え方が重要となります。その要諦は①状況把握、②戦略策定、③魅力創出、④滞在化・平準化、⑤保存・活用、⑥組織・人材、⑦ブランド形成、⑧財源確保、⑨危機管理などですが、中でも地域の将来「ビジョン」、それを実現させる「組織」、そして組織を維持し、ビジョンを実現するのための「財源」の３つについて分かり易く解説します。



テーマ：食文化×トレンドで巻き込む！実践型地域ブランディング戦略
講　師：杤尾　圭亮　（株式会社船井総合研究所　マネージング・ディレクター）

高知県安芸市の「釜揚げちりめん丼」事例（地域再生マネージャー事業採用）から、食文化と時流を掛け合わせた地域振興手法を伝授。地域分析から物語・計画・情報発信、住民や関係者を巻き込む人・組織の育て方まで、実践的な７つの法則を学びます。



テーマ：地域資源を活用した循環型のまちづくり
講　師：河野　公彦　（inc１合同会社　代表）

波佐見焼で人気を博す町で抱えていた積年の課題が廃石膏のリサイクルでした。
しかもそれに伴うリスクも高まっていました。サスティナブルが求められる時代でどのように循環型のまちづくりをしてきたのか。その取組み事例を中心に全貌、意味、ノウハウ等を多面的・多目的に学び、他地域でも応用できる講義にします。

【ひと】



テーマ：コミュニティ再生と地域運営
講　師：若菜　千穂　（ＮＰＯ法人いわて地域づくり支援センター　常務理事）

東北の農山村地域を対象に住民主体の地域づくりや地域運営組織形成の支援を行っています。住民自治のあり方は地域それぞれで、そのため地域運営のあり方も異なります。住民主体の地域づくりを進めるために求められる地域の捉え方や目指す姿、多様な主体同士の信頼関係に基づく丁寧な対話のはじめ方など具体的な支援プロセスのつくり方について現場視点でお話しできればと思います。



テーマ：地域づくりの新しい仲間・関係人口
講　師：田中　輝美　（島根県立大学　地域政策学部　准教授）

関係人口という言葉を聞いたことがあるでしょうか。その地域に住んでいなくても、地域に関わり、一緒に地域づくりに取り組む外にいる仲間です。
講義では、関係人口と地域の具体的な協働事例のほか、移住・定住、交流・観光との違いや連携について学びます。



テーマ：地域のジェンダーギャップ解消と女性リーダー育成
-自治体・企業の現場から-
講　師：小安　美和　（株式会社 Will Lab　代表取締役）

若者・女性の流出が地域の持続性を左右する時代、地域企業の意識改革や女性リーダー育成、自治体の戦略づくりはどう進んでいるのか。全国各地の自治体・企業と歩んだ実践から、現場の変化と行政に求められる役割を考えます。

【まち】



テーマ：人口減少時代の都市政策
講　師：野澤　千絵　（明治大学　政治経済学部　教授）

本格的な人口減少時代の中では、人口を奪い合うのではなく、人口密度を維持・向上しながら、街の世代交代を進め、広域的にも各地域の生活がそれなりに成り立つ形の都市政策が必要です。本講義では、立地の観点もふまえた移住者支援政策・空き家活用・土地利用コントロール等の講義を進めていきます。



テーマ：脱炭素・ネイチャーポジティブなまちづくり
講　師：重藤　さわ子　（事業構想大学院大学　教授）

地域の持続可能戦略は大きな課題です。本講義では「グローバルな環境変化と地域」という文脈から地域における脱炭素とネイチャーポジティブの意義について解説します。さらに、それらをまちづくりにつなげていくための方法論を現在の課題と共に考えます。



テーマ：歴史・文化資源を活用した持続的なまちづくり
講　師：藤原　岳史　（株式会社ＮＯＴＥ　代表取締役）

歴史・文化資源を活用して、地域の暮らし文化を１００年先の未来に繋げるためのまちづくりを全国で展開しています。「豊かな国土づくり」に向けて、仕事や経済、文化や観光、まちづくりや開発の概念をこれからの日本の暮らしを描きながら皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

3．プロセスデザイン研修

プロセスデザイン研修

それぞれの分野で活躍している著名な実務家（メイン講師）が携わってきた事例を題材に、
地域課題を解決するプロセスを学びます。
実務家と共に、知見の深い討論者がセットになって、下記の３ステップで行っていきます。

01
事例分析講義
【120分×4テーマ】

実務家の事例説明を討論者と掛け合いをしながら、事業成功のポイントや困難に直面した際の解決方策を引き出していきます。また受講生も疑問をぶつけていくことで、一緒に事例のプロセスをひもといていきます。

02
現地視察
【1泊2日×1テーマ】

4テーマから1テーマ(1地域)を選択して、現地視察を実施

実務家の案内のもと、事例分析講義で学んだ地域を視察し、事業推進の主体となった地域住民や地方自治体等のリアルな声を聴き、事業プロセスの理解を深めます。

03
発表
【90分×4テーマ】

実務家から出された「テーマ」に対して、グループごとにまとめ、発表をします。議論の中で地域課題への理解を深め、受講生の自治体が抱える課題解決に繋がる手法を身に着けます。

＜講師紹介＞

【テーマ：しごと】地域資源活用によるビジネス創出
～いなかビジネス教えちゃる～

現地視察先
山形県 庄内町



実務家講師：畦地　履正　（株式会社四万十ドラマ　代表取締役）

いなかでも「こんなことをしてる・こんなことができる」という希望に対する答えは現場にあります。あしもとにあるものをもう一度見直すことによって宝物が生まれた瞬間を、皆さんと一緒に体感していきます。そして今度は「皆さんの宝物」を一緒に探しにいきましょう。

討論者：図司　直也　（法政大学　現代福祉学部　教授）

四万十での経験を起点にして、各地の現場に赴き、ひとと資源を活用しながら、
ビジネス創出に導く畦地講師の実践プロセスに学びます。
その要点は何か、受講生の皆さんの足元を見つめ直すヒントを一緒に探りましょう。



【テーマ：ひと】関係人口創出・移住
～私たちはローカルで幸せを見つける～

現地視察先
島根県 松江市 他



実務家講師：指出　一正　（株式会社ソトコト　代表取締役　ソトコト編集長）

「観光以上、移住未満の第三の人口」と称される関係人口。各地で人口減少・高齢化が進む　なか、地域づくりの担い手としての存在に期待が集まっています。関係人口とは何か? 関係人口が生まれることによる地域の変化は? どう関係人口や移住者を呼び込むかなど、2012 年にスタートした島根県の関係人口講座「しまコトアカデミー」をはじめ、全国の関係人口創出と移住促進の好例をもとに、実態と背景、傾向をわかりやすく解説していきます。

討論者：小田切　徳美　（明治大学　農学部　教授）

関係人口は、わかりやすくかつ奥深い存在です。だれでも関係人口が地域に必要であることはわかりますが、なぜそうなのかはなかなか説明できません。関係人口を世の中にはじめて提唱した実践家講師とともに、「なぜ」、「どうしたら」を徹底的に掘り下げます。



【テーマ：まち（商店街）】応援の連鎖がまちを変える
～日南市・油津商店街にみる新しい地方創生のかたち～

現地視察先
宮崎県 日南市



実務家講師：木藤　亮太　（株式会社油津応援団　取締役）

油津商店街(宮崎県日南市)の再生事業の話題を中心に、地方創生、まちづくり、地域活性化について分析し、人口減少の中でどのような手法が有効なのかを紐解きます。再生しない”再生事業”がはじまって 12 年。行政事業が先導した４年、民間の力で自走しはじめた４年、そしてコロナ禍を乗り越え新たなステージを目指した４年。それぞれのプロセスはどうデザインされ、実践され、変化に適応していったのかについて意見交換します。

討論者：根岸　裕孝　（宮崎大学　地域資源創成学部　学部長　教授）

実務家講師は「まちなか再生請負人」として、衰退の一途であった日南市油津商店街を見事に蘇らせました。家族で地域に飛び込み、多くの人を繋ぎ、夢をカタチにするチカラとはどのようなものなのかを体現したプロセスについてやりとりを通じてより具体的に引き出していきます。



【テーマ：まち（空き家）】自治体毎の空き家対策を考える
～実践の中から見つける、あなたのまちの空き家対策～

現地視察先
岡山県　高梁市（たかはし）



実務家講師：有江　正太　（NPO 法人空き家コンシェルジュ 代表）

空き家問題は、地域毎に課題や有効な対策は大きく異なります。地域課題に即した空き家総合相談窓口構築やプラットホーム構築、自治体組織再編等、自治体毎の支援を専門団体として実施しております。その事例を基に他地域に活かせる空き家対策を共に考えます。

討論者：野澤　千絵　（明治大学　政治経済学部　教授）

空き家対策は、地域特性・担い手の状況等でアプローチが全く異なります。これまで数多く空き家対策の実践経験を有する講師との討論を通じて、受講生の皆様が自らのまちに合った空き家対策を見出し、実践への第一歩を踏み出す機会にして下さい。



４．講義日程

※敬称略

第1回	6/2（水）		オリエンテーション 開講式 9:45-11:45	＜総論講義＞ 小田切　徳美 13:00-14:40	＜講義１＞ 若菜　千穂 14:55-16:25	＜特別講義＞ 大江　和彦 16:40-18:10	交流会 18:30～
	6/3（木）	＜理事長講義＞ 末宗　徹郎 8:45-10:00	＜講義２＞ 枋尾　圭亮 10:15-11:45	＜講義３＞ 野澤　千絵 13:00-14:30	【プロセスデザイン研修】 ＜事例分析講義＞ ◆テーマ：まち（空き家） 有江、野澤 14:50－16:50		
第2回	7/22（木）		【プロセスデザイン研修】 ＜事例分析講義＞ ◆テーマ：ひと 指出、小田切 9:45－11:45	【プロセスデザイン研修】 ＜事例分析講義＞ ◆テーマ：まち（商店街） 木藤、根岸 13:00－15:00	＜講義４＞ 藤原　岳史 15:20－16:50	交流会 17:30～	
	7/23（金）		＜講義５＞ 田中　輝美 10:15-11:45	【プロセスデザイン研修】 ＜事例分析講義＞ ◆テーマ：しごと 畦地、図司 13:00－15:00	＜講義６＞ 図司　直也 15:20－16:50	発表準備① 17:00－18:00	
第3回	8月～10月 （木-金） 1泊2日	【プロセスデザイン研修】＜現地視察＞（テーマごと、各班受講生８名程度） ◆木藤班（宮崎県日南市）　◆指出班（島根県松江市 他） ◆畦地班（山形県庄内町）　◆有江班（岡山県高梁市）					
第4回	11/18（木）		＜講義７＞ 重藤　さわ子 10:15-11:45	＜講義８＞ 梅川　智也 13:00-14:30	＜講義９＞ 小安　美和 14:45-16:15	＜講義１０＞ 河野　公彦 16:30-18:00	
	11/19（金）	発表準備② 8:45－10:00	【プロセスデザイン研修】＜発表・講評＞（全員テーマ①～④に参加） テーマ発表① 有江、野澤 10:15-11:45	テーマ発表② 木藤、根岸 13:00-14:30	テーマ発表③ 畦地、図司 14:45-16:15	テーマ発表④ 指出、小田切 16:30-18:00	閉講式 18:10～ 交流会 18:50～
第5回	1月下旬頃		13:00-17:30 地域再生マネージャー事業実績報告会				交流会 18:00～

・地域再生マネージャー事業実績報告会に参加し、全国各地の特色ある地域づくりの取組みを学ことができます。
・講義終了後に複数回受講生と講師との間で交流会の開催を予定しております。

（１）開催場所

◆講義・事例分析・プレゼン発表準備
会場：**全国町村会館 会議室**　他

◆プロセスデザイン研修（現地視察）
４グループに分かれて、それぞれテーマに沿った地域を訪問・視察します。

（２）修了者認定について

原則、次の２つの基準を満たした場合、修了証を授与します。

①実践型講義の３分の２以上に出席すること。
②プロセスデザイン研修に出席すること。

5．スクールの魅力

第２期生の受講の様子とともに、**スクールの魅力**をお伝えします！
詳細については財団ホームページをご確認ください

＜講義＞



単なる知識のインプットではなく、現場経験のある講師と双方向でやり取りするのが特徴です。講義の中で活発な質疑応答や自分の自治体が抱える問題に対する具体的な相談が行われ、すぐに実践に活かせる学びが得られます。

＜プロセスデザイン研修＞



しごと、ひと、まち（商店街）、まち（空き家）の４つのテーマに対して、講師と討論者が対話形式の講義を行い、現地視察前に理解を深めます。自分の選択テーマ以外の講義もすべて受講できるため、色々な角度から地域課題のヒントが得られます。

＜交流会＞



スクールの大きな魅力は、対面形式で、講師を含むすべての参加者と、立場や地域を超えて語り合い、交流を深められるところにあります。日中の学びをふまえつつ、本音の相談や情報交換ができることで、スクール期間中の関係にとどまらず、実務につながる信頼関係やネットワークを築いています。

＜現地視察＞



地域で活躍される方々から直接お話をお伺いし、実際に現場を自分の目で確かめることで、座学では得られないリアルな学びを体感できます。課題解決のプロセスや工夫を肌で感じ、自分の自治体への応用方法を考える契機となります。

6．受講生の声



★第２期生

茨城県　高萩市

企画財政課

主幹　柴田　来奈実さん

◇地域未来創生スクールを受講しようと思った理由を教えてください。

総合戦略やアセットマネジメント業務に携わる中、人口減少などの地域課題に対し、実効性のある解決策を見出す難しさを感じていました。海や山など高いポテンシャルを秘める本市の現状をさらに前へ進め、「もっとイケてるまちにしたい」と強く願っていました。第一線で活躍する講師陣から学び、全国の志を同じくする仲間とネットワークを築ける点に惹かれ、実践力を身につけるべく受講を決めました。

◇講師や他の受講生との交流について、印象に残っていることがあれば教えてください。

第一線で活躍する講師陣との熱い交流に加え、ひと班の仲間と島根県への現地視察や発表に向けたオンライン打ち合わせを重ねた日々が強く印象に残っています。熱い想いを持つメンバーと真剣な議論を交わしたり、時には和やかな雑談で仲が深まりました。各自治体の現状、課題、先進的な取組を聞いた時間は大きな刺激となり、共に地域を良くしようと奔走する仲間の存在が、私自身も主体的に実践へ踏み出す原動力です。

◇地域未来創生スクールを受講してよかったと思う点を教えてください。

地域が直面している課題や、各地で実践されている取組を学ぶことで、県として市町村とどのように連携し、地域づくりに関わっていくべきか、具体的なイメージを持つことができました。また、講義を通じて、かつての賑わいを取り戻すことだけを目指すのではなく、これからの地域をより良くしていくために、新たな発想で挑戦することへの意欲が高まりました。地域の将来をポジティブに捉え、これからの地域づくりについて考えるきっかけとなりました。

◇講義を受けてからの変化や、学んだことを活かして今後取組みたいことがあれば教えてください

制度周知や情報提供にとどまらず、市町村職員と共に実際に現場に足を運び、地域の声や課題を直接見聞きすることを大切にしたいと考えるようになりました。地域づくりには様々な分野にまたがる取組が求められるため、部局連携や市町村間の橋渡しなど、県だからこそできる役割を意識して地域づくりに貢献したいです。また、スクールで得た学びや出会いを市町村にも積極的に紹介し、地域同士が新たな取組や知恵を共有できる機会を広げていきたいです。

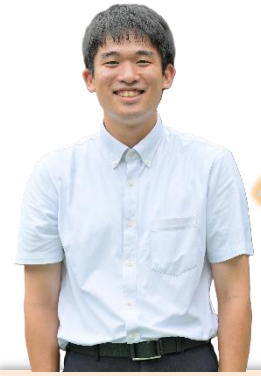


★第２期生

宮城県

市町村課

主査　礒野　太輔さん



★第２期生

宮崎県　西米良村

総務課

主任主事　松本　群さん

◇地域未来創生スクールのプロセスデザイン研修（事例分析講義・現地視察）を受講しての感想を教えてください。

講師陣と対話する時間が多く設けられており、質疑応答を通して講義内容への理解が深まりました。現地視察では、最前線で活躍するプレイヤーの皆さんの熱量や地域の魅力に触れ、「自分の地域にも、他の地域にはない魅力があるのではないか」と思えるようになりました。この学びを活かし、これからは自らの地域で主体的に活動していきたいです。

◇地域未来創生スクールからの学びでよかったと思う点を教えてください。

「実践的な学び」と「体系化」の双方の視点から地域課題を捉え直すことで、先行事例を自らの地域へ落とし込む際のヒントを得られました。また、同じテーマを学ぶ受講生仲間とオンラインで研修の振り返りや地域課題の解決策を考える機会があり、こうしたグループワークを通じた対話のプロセスが、今後地域で関係者と共に未来を考えていく上での、本番さながらの実践練習になりました。

◇地域未来創生スクールの情報をどこで知ったのか教えてください。
また、受講しようと思った理由を教えてください。

私は銀行の本部で自治体業務を担当しています。自治体が抱える課題が多様化する中、地域のニーズを的確に捉え、より実効性のある提案力を高めたいと考え、自治体支援を学べるスクールを探していました。複数のスクールを比較するなかで本スクールを知り、地域課題の解決に取り組んできた講師から学べることや、現地視察で事例を学べる点に魅力を感じました。特に、現地の取組みに触れることで、自治体支援に必要な知識や新たな視点を得られると考え、受講を決めました。

◇地域未来創生スクールで学んだことを現在の仕事にどう活かしたいか教えてください。

地域課題の解決には、地域の実情を丁寧に把握し、多様な関係者をつなぎながら、地域に合った仕組みをつくることが重要だと学びました。今後は、自治体との対話を通じて課題や地域資源を整理し、他地域の事例も活かしながら、具体的な提案につなげていきたいです。地域金融機関として、自治体・事業者・地域住民などをつなぐ役割を担い、実行後も伴走することで、持続可能な地域づくりに貢献していきたいと考えています。



★第２期生
埼玉りそな銀行
地域ビジネス部
マネージャー　阿部（あべ）　小百合（さゆり）さん



☆第１期生
山口県　岩国（いわくに）市
地域づくり推進課
主任　廣津（ひろつ）　圭介（けいすけ）さん

◇地域未来創生スクールでの学びが現在の仕事にどう活かされているか教えてください。

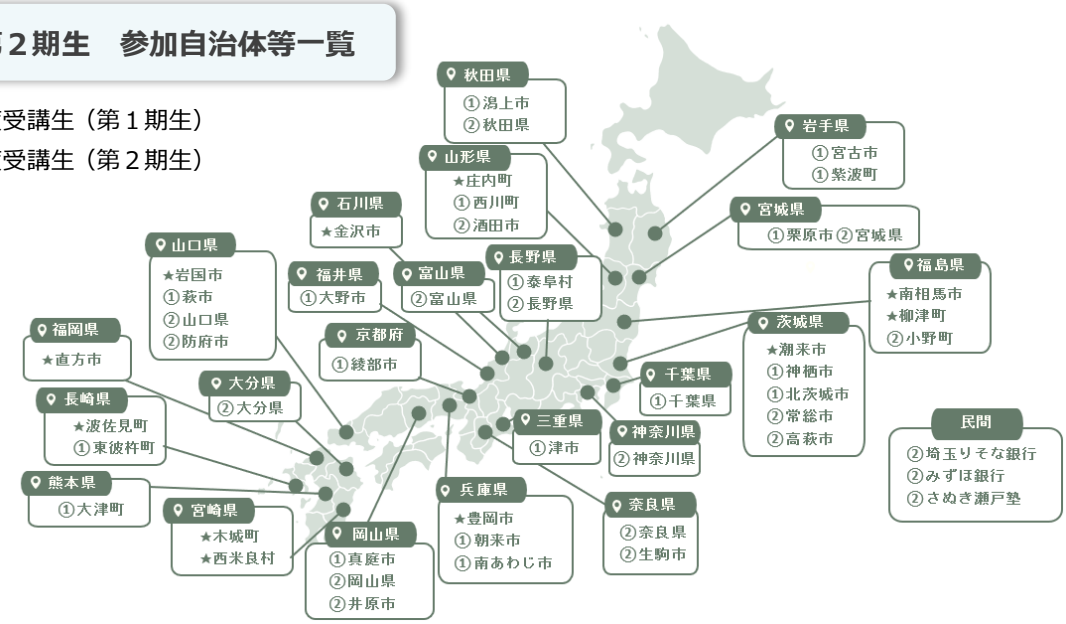
地域未来創生スクールでは、地域づくりは事業を実施することだけでなく、継続的な挑戦を生み出していくことが重要だと学びました。受講後はスクールでお世話になった木藤講師を岩国市職員向けの地域づくり協働推進研修に講師としてお招きしたほか、商店街担当部署や市内のまちづくり会社との橋渡しも行いました。将来的な連携やふるさと財団の支援制度活用の可能性も含め、新たな関係づくりにつながっています。

◇地域未来創生スクールで構築された人的つながりが活かされた場面について教えてください。

スクールで得た最大の財産は、全国の仲間とのネットワークです。修了後も交流は続いており、同じ班のメンバーからお声掛けいただき、両市の中間地点で行われたまちづくりに関する研修会へ一緒に参加する機会をいただきました。スクール外でも他地域の実践事例を学び、意見交換を行うことができました。スクールで生まれたつながりが、その後の学びや挑戦につながっています。今後は第２期、第３期の皆さんとも交流できる機会を楽しみにしています。

★ 第１期生・第２期生　参加自治体等一覧

①・・・令和７年度受講生（第１期生）
②・・・令和８年度受講生（第２期生）
★・・・両方参加



７．募集要領

（１）募集人数　３０名程度

（２）対 象 者　地域づくりを経験している地方自治体職員、地域づくりを担う民間事業者等

（３）応募書類

①参加申込書【様式第１号】②経歴書【様式第２号】

※様式は、一般財団法人ふるさと財団 ホームページからダウンロードをお願いいたします。

（４）応募方法

令和９年１月 29 日（金）必着で、連絡担当者より参加申込書【様式第１号】及び経歴書【様式第２号】を 一般財団法人ふるさと財団 地域再生部事業推進課へメール又は郵送にて提出してください。

（５）受講生の決定

応募書類をもとに受講生を選考し、**令和９年２月下旬**を目途に、応募者の連絡担当者および応募者のメールアドレス宛に採否を通知します。

（６）経費について

①受講料　　：**１名あたり　２０万円（教材費を含みます）**

②交通・宿泊費：研修地（東京・現地調査先）までの往復旅費の交通費、研修中の宿泊費は派遣元負担または自己負担となります。

③交流会費　　：講義後の交流会費用は財団で負担します。
（現地視察時の交流会費用は派遣元負担または自己負担となります。）

（７）その他

・交通・宿泊費の精算は、各自でお支払いいただきます。

・研修を受講する際に必要となる宿泊場所については、原則各自ご予約いただきます。ただし、プロセスデザイン研修の現地視察に係る宿泊は、事務局で予約を行い、視察当日各自でお支払いいただきます。

＜問い合わせ先＞

一般財団法人 ふるさと財団
地域再生部 事業推進課　担当：丸山・二輪・原田

住　所　：〒102-0083　東京都千代田区麹町 4-8-1 麹町クリスタルシティ東館 12F
電話番号：０３（３２６３）５７３６
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：suishin-ka@furusato-zaidan.or.jp